

第5章 地域公共交通の活性化及び

再生の推進に関する基本的な方針

1 大府市の交通将来像

全国的には、人口減少や少子高齢化が進展する中、本市の人口は依然として増加傾向にあり、高齢化率も全国平均と比較し低い状況です。しかし、長期的な視点からみた場合、人口は横ばいで推移していくものの、本市においても少子高齢化による人口構成やライフスタイルの変化に伴い、移動手段がマイカーから公共交通機関へシフトするなど、今後は公共交通機関に対するニーズが高まっていくことが予想されます。

本計画では、上位計画である第6次大府市総合計画、及び関連計画である第4次大府市都市計画マスタープランの将来都市像を踏まえつつ、地域公共交通においては、行政、交通事業者などがそれぞれ独自に運行・運営する「部分最適」としてではなく、地域住民などを含めた地域公共交通に関わる全ての関係者が創意工夫を凝らしつつ、地域公共交通ネットワーク全体の望ましい在り方に向けて、まちづくりとの連携や地域資源の活用など地域に係る事業全体を見渡した「全体最適」の視点で取り組み、持続可能な地域公共交通体系を構築することで「公共交通で つながる ひろがる 健康都市 おおぶ」の実現を目指します。

第6次大府市総合計画

将来都市像

「いつまでも 住み続けたい

サステナブル健康都市 おおぶ

ひと、くらし、まち、みらいの4つの健康に健康都市経営を加えた5つの領域を軸とした健康都市の実現を目指します。

公共交通分野では、市民の目的地への円滑な移動や外出を促す機能が強化され、快適で自由に利用できる地域公共交通ネットワークの形成を目指しています。

第4次大府市都市計画マスタープラン

将来都市像

「まちの心地よさを五感で感じられ

いつまでも住み続けたいと思える 健康都市

都市構造における都市機能集積の高い都市づくりの視点から、世代やライフスタイルに応じて、くらしに必要な都市機能・生活機能と地域公共交通の連携を備えた利便性の高い集約型の都市を目指しています。

まちづくりと連携した地域公共交通ネットワークについて、地域住民、交通事業者、NPO、行政が一体となり、鉄道、路線バス、循環バス、タクシーなどが連携した利便性の高い移動環境の形成を進めます。

『交通将来像』

「公共交通で つながる ひろがる 健康都市 おおぶ」

2 地域公共交通の基本方針

大府市における地域公共交通の課題を踏まえ、交通将来像「公共交通で つながる ひろがる 健康都市 おおぶ」の実現に向け、地域公共交通の基本方針を定めます。また、課題を解決するための基本施策を定めます。

- 課題① 都市間・都市内地域公共交通ネットワークの充実
- 課題② わかりやすい地域公共交通サービスの充実
- 課題③ 変化・多様化する移動ニーズへの対応
- 課題④ 持続可能な地域公共交通に関わる関係者の連携・協働

交通将来像

「公共交通で つながる ひろがる 健康都市 おおぶ」

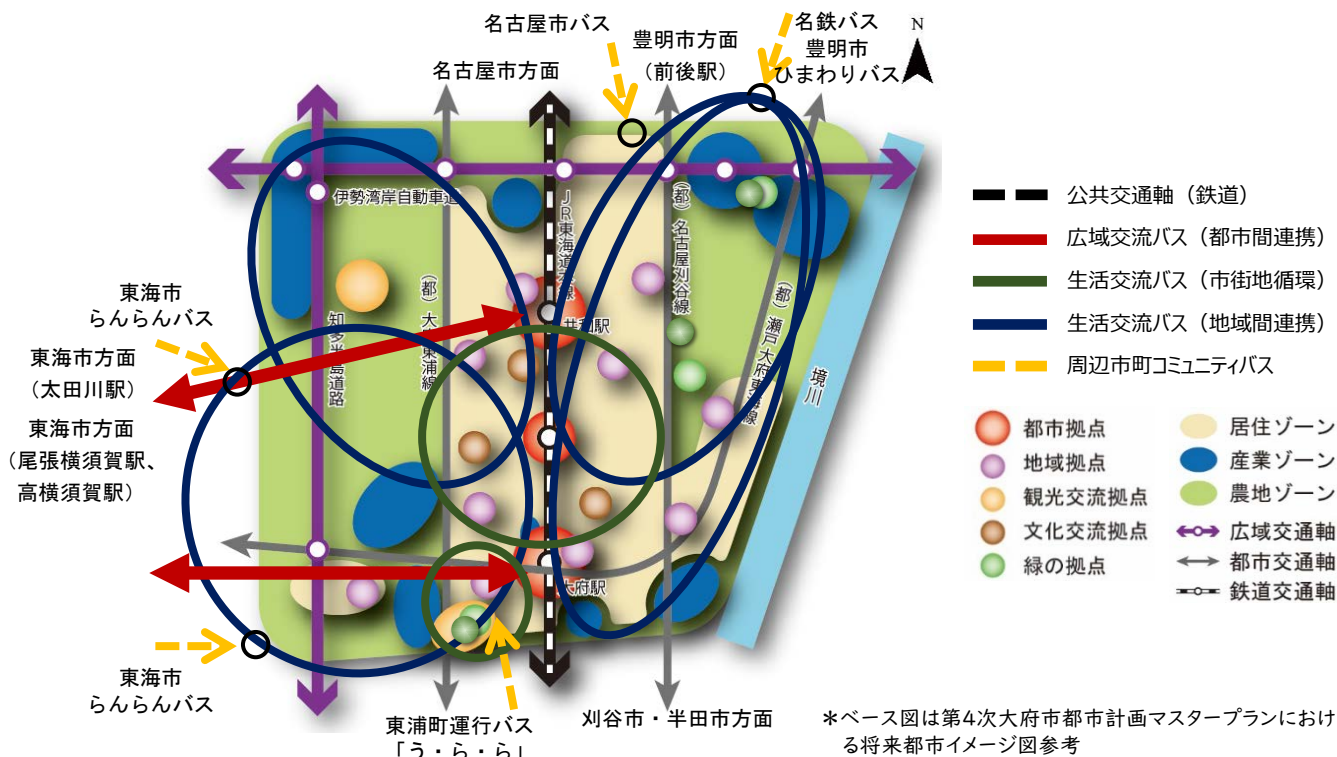
基本方針Ⅰ 鉄道駅を中心に都市拠点や市内各地域拠点と連携し、にぎわいと交流を創出する地域公共交通ネットワークの形成

基本方針Ⅱ 文化交流拠点や観光交流拠点などと連携し、健康を増進する地域公共交通利用環境の整備

基本方針Ⅲ 買物や通院など多様化する移動目的に対応し、利用しやすく・わかりやすい地域公共交通サービスの提供

基本方針Ⅳ 交通事業者、地域の住民・団体及び行政の協働により、持続可能な地域公共交通を支え育む仕組みの構築

図表 5-1 大府市における地域公共交通体系のイメージ



基本方針Ⅰ 鉄道駅を中心に都市拠点や市内各地域拠点と連携し、にぎわいと交流を創出する地域公共交通ネットワークの形成

<課題①>

大府市の地域公共交通は、鉄道と路線バスが、鉄道駅である大府駅及び共和駅を交通結節点として、名古屋方面をはじめ、知多、尾張、三河方面への広域・隣接都市間の移動需要に対応しています。また、循環バスは市内の公共施設をはじめ、集客・商業施設、医療・福祉施設、豊明市の名鉄前後駅や東海市・東浦町のコミュニティバスなどと連絡しており、面的なネットワークが形成されています。バスのサービスが提供されない時間帯や個別輸送においては、タクシーが移動需要への対応を担っています。これらの地域公共交通が市内外を相互に連携し各地域拠点と駅周辺をつなぐことで、にぎわいと交流を創出するとともに、自動車などから地域公共交通へ移手段の転換を促し、地球環境にもやさしい地域公共交通ネットワークの形成を目指します。

●基本施策

①地域公共交通ネットワークの見直し

利用形態や実態、及び社会情勢の変化に対応した地域公共交通ネットワークの形成を図る

②環境に配慮した地域公共交通の利用促進

渋滞の緩和、温室効果ガスの削減などの視点から、地域公共交通への利用転換や新技術の調査・研究を図る

基本方針Ⅱ 文化交流拠点や観光交流拠点などと連携し、健康を増進する地域公共交通利用環境の整備

<課題①②>

大府市には、おおぶ文化交流の杜や歴史民俗資料館などの文化交流施設があります。また、あいち健康の森公園、大府みどり公園、ニツ池公園、大倉公園などの公園をはじめ、熱田神社、長草天神社、延命寺、円通寺などの社寺、あぐりタウンげんきの郷など、地域の自然・文化歴史・観光施設などの魅力的な拠点があります。さらに、あいち健康の森とその周辺には国立長寿医療研究センターやあいち健康プラザなどの健康・医療・福祉に関する施設が多数立地しています。こうした施設や市内の各拠点を交流拠点とし、鉄道駅（交通結節点）とつなぐ地域公共交通体系の構築と交通結節点の充実により外出支援を図り、市民の健康を増進します。

●基本施策

③市民の健康増進のための外出支援の促進

観光施設や文化交流施設などの交流拠点と鉄道駅（交通結節点）をつなぐ地域公共交通体系の構築と交通結節点（乗継・待合環境）の充実により外出支援を図る

④各種イベントなどと連携した地域公共交通の利用促進

季節ごとの公共交通乗車イベントの開催や、各種イベントなどとの連携により、地域公共交通の利用促進を図る

基本方針Ⅲ 買物や通院など多様化する移動目的に対応し、利用しやすく・わかりやすい地域公共交通サービスの提供

<課題②③>

大府市内を運行する地域公共交通の年間利用者数は2018年現在、鉄道は増加傾向にあり約891万人、路線バスは横ばい傾向にあり約58万人、循環バスは増加傾向にあり約19万人です。

これまで循環バスはきめ細かなバス停配置を実施してきた結果、鉄道、路線バス及び循環バスの利用圏域(鉄道駅から800m、バス停から300m)による人口カバー率は約86%を占めており、大府市の地域公共交通に関するアンケート(2019年8月実施)では、循環バスの認知度は約95%を占めていることから、現在提供されている地域公共交通サービスは、市民などの生活の足として定着していることが伺えますが、今後の高齢者人口の増加や運転免許証返納の促進などもあり、多様化する移動目的への対応や、新たな情報技術を活用した利用しやすく・わかりやすい地域公共交通サービスを提供します。

●基本施策

⑤買物・通院支援や運転免許証返納への対応

まちづくりとの連携や社会情勢の変化に対応し、全ての地域公共交通が連携したサービスの提供を図る

⑥インターネットなどを活用した情報提供の促進

地域公共交通情報の提供・周知とともに、地域公共交通の利用しやすさ、わかりやすさへの対応を図る

基本方針Ⅳ 交通事業者、地域の住民・団体及び行政の協働により、持続可能な地域公共交通を支え育む仕組みの構築

<課題①②③④>

基本方針Ⅰ～Ⅲの実施にあたっては、地域の公共交通として愛され、親しまれるとともに、利用が楽しく、次も利用したくなる環境づくりが重要であり、持続可能なものでなければなりません。

地域公共交通の確保・維持にあたっては、市民や利用者のニーズに的確に対応していく必要がありますが、交通事業者や行政が個別に検討、実施するのではなく、市民、地域の団体などを含めた地域公共交通に関わる全ての関係者の連携・協働により、持続可能な地域公共交通として支え育み、高齢者をはじめ誰もが外出したくなる仕組みを構築し、各種取組を進めます。

●基本施策

⑦大府市地域公共交通活性化協議会の定期的開催と関係機関及び他分野との連携強化

⑧持続可能な地域公共交通体系の構築

⑨新たな利用者の創出

⑩新たな地域公共交通サービスの調査・研究

⑪地域公共交通機関に携わる人材などの確保